

観劇は感激だ

(何このしょうもないじゃれ)

かなり勝手に観劇記 2018年総まとめ、みたいなの



「綺麗なバラには刺がある」とはよく言いますが、(角の生えたバラだよ違うけど、ちょっと面白いので載せてみた)。全然関係ない手前味噌な話ですけど、真逆なパターンで、むらかみは一見無愛想なくせて実は優しいと言われる。だから何だって話ですけどねー。もう既に2019年かも知れないけど、とにかく一年を振り返って、思ったことを書いてみた。

これまであまり舞台を観ないできたむらかみが、劇場に積極的に足を運ぶようになったのは、2018年の3月からです。ちょうど次の仕事が決まらない頃で、いささかヤケになってたんですな。とにかく出かけようと思って、旅行にも行ったけど(母親連れて)、一番行きたかったのが劇場だったと、そういうことです。演劇はお客さんがいて成立するもので、これまでお世話になった演劇への恩返しとして手取り早くできることが観に行くことだったんです。一人でもお客さんが増えることが、芝居やってる人の励みに少しでもなればいいという思いですかねー。

これは、前にも書いたのですが、価格帯としては¥2000代から¥3000代前半くらいを狙いました。若い劇団がそうだから、ていうのもあるし、活動資金の問題もある。でもって、中入ったことない新しい劇場などを目指してみました。家が練馬なもんで、区部の北西にだいが寄ってますけどね、それでも行こうと思って行ききれなかった小屋もまだある。2019年は、東の方とか、南の方も目指していこうと思っている。

トータルすると、この一年間で、学生から公務員いろいろ含めて62本の舞台を観ました。劇場でいうと50にのぼる。これは公共含めて一般人が入れる施設で、都庁の中とか、大学の施設は除いた数ですね。大小さまざまですけど、やはり劇場はいいと素朴に思った。多少は詳しくなったから、利用を考えていたら、「ここどう？」などと気軽に聞いてください。

よくあるパターンで、これは個人の趣味の問題だが、勝手に気に入った舞台を挙げてみる。順位とかそういうものでもなければ、ほんとにむらかみの好み。そのうち、「勝手に演劇賞」とか出したら喜んでくれるかなあ。賞金にもよるよなあ…。とりあえず、『メタルマクベス』とか、日生劇場の『リトル・ナイト・ミュージック』とか大々的なのは除いての話ね。敢えて三本と言ったらこの三つかなあ。

・劇団鋼鉄村松 『人造カノジョ~あるいは近未来のフランケンシュタイン~』

大塚 萬劇場 ¥3500

・劇団ネコ脱出 『てっぱんねた』

下北沢「劇」小劇場 ¥3500

・劇団冷たいかぼちゃスープ 『いる』

千歳船橋 APOC シアター ¥2500

他にも思いつくのありますけどね、むらかみ的にはこの三本で。「人造カノジョ」は新しいテーマながら小劇場華やかなりし頃のテイストたっぷり。ちょっとマニアックだけど個人的に好き。「てっぱんねた」は、より王道で

コミカルな路線ながら、興行的な新しさを見た思いがする点とか含めて良かった。「いる」は、突出した個があるというわけでもなくでもトータルとして多くの人間を見せる手法が上手くできすぎなどともあるけど印象に残った。あと、障害のある方（おそらく）が出演されていた点も印象に残りました。ばちばちばち。

だから、¥3500とか、そこいらへんに一つラインがあって、¥4000出すとまあまっとうな舞台に出会うことができるのかな、それでも好き嫌いの問題がついて回るので舞台は難しい。むらかみは、これからも、¥3000代までの舞台を狙って観にゆくつもりです。¥3500だとほぼ映画二本分。（むらかみは年取ったのでイオンシネマだと¥1100で観られるようになりました）どっちを取るかという一般的なには映画なのかなあ。かといって、価格を下げればいいのかというと、劇団のお財布とか考えると現実的でない面もある。きちんと成り立つ（といっても個々の出演者はやっぱり苦労していると思う）演劇というのは難しい。でも、どうか皆さん、是非劇場に足を運んで欲しいと思うのです。あまりオススメはしませんが、¥2000代でも面白い舞台ありますよ。あと、あなたのためにも身近な「え、こんなところに？」でところにちっちゃい劇場があって、そこで芝居がかかっているかも知れませんよ。

劇場自体は古い新しいひっくるめてあっちこっちにある。ただ町に埋もれた感はあるのかも知れない。すっかり様変わりいたしまして、「役者との面会は場内で」ということが当たり前になっている。外で騒ぐと近隣への迷惑になる、て配慮なのだろうか。小劇場華やかな頃には、劇場があって、本番終わった役者や観客が集まって、それが活性化にもなる、という側面はあったんだと思う。小屋入りして近くのお弁当屋さんで弁当をたくさん頼む。他にも時間待ちの観客が近くの喫茶店やファストフード店に集まりそこでお金を使う。下北沢なんかを除くと、今、多くの小劇場はなるべく外から目立たぬように、人目につかぬようにひっそりと佇んでいる。どっちがいいのかはわからない。地元の商店街などと一緒になって町を盛り上げるのが理想形かなとは思っている。でも、せめて劇場内だけは賑やかであって欲しい。

椅子席も当たり前になったような気がする。単純に客数少ないからか？ 棧敷やベンチ席にぎちぎちに詰めて観劇することもままあった頃を懐かしく思う。でもそれが時代の変化ならついていくことを考えないといけなんでしょう。

むらかみも今年ツイッターというものを始めて、でもあまり利用はしてなかった。12月になって、これはとある方のアドバイスによるのだが、ハッシュタグつけて観た芝居の関係者の目に触れるよう努力したり、いろんなツイートに「いいね」を押ししたりしていたら、12月だけでフォロワーさんが100人を超えた。演劇関係ばかりではない。いろんな方がいるのでそれはそれで面白いと今思っている。今はまだツイッター上でのつながりだけだけど、新しい関係も生まれつつある。一日二回がほぼ限界、それをがんばっても数回の公演で一回の観客がほぼ百人以下であろう演劇の発信力たるや微々たるものである。それでも、そこには他で得られない濃密さがあると思う。いつか、人間が、家から一歩も出ないままに生活が成立する、仕事も学校も、子育ても。そんな時代がほんとうに来るのかも知れない。その時はその時、少なくとも今はまだ直接対面での世界というのは現実に存在して、多くの人々はその中で生きている。もちろん、何か別な目的があって舞台を観たり演ったりするわけではない。むらかみは、ただ好きだからやっている。舞台が、そこで演じられる演劇が、役者と観客が特異な出会いをする劇場という空間が。むらかみは大好きだから。でも、変な話だけど、そこで生きていくための何かを、演劇は提供できるのではないかと思っている。

だから、来年も可能な限り劇場へ足を運ぼうと思う。東京で、まだ行ってない劇場とか、近隣の県とか。地方にも行こうと今考えている。実は、三月に仙台へ行くことを今計画している。ちょっとだけ困ったことに、フォロワーさんの関わる芝居をなるべく観に行こうと思ったら、意外にも一月のスケジュールがだいぶ埋まりつつある。そこはバランス考えないといけないかな。ほんとに観たい舞台は関係なく観たいし、フォロワーさんの芝居だけ観てはまた新たな展開が生まれないうちも知れないし、痛し痒しなところです。でも、お誘いを受ければ、可能な限り伺いたいとは思っています。

ワークショップだったり、文化祭的行事だったり、学校演劇には関わってきたが、今年、大体月一回のペースで、戯曲を読む会を始めた。まあ、細々とではありますけど。2019年は、それを母体にして何かイベントを開けたらいいなと今思っている。実現できるといいかな。スタッフの仕事も入りそうな勢いなので、そっちが忙しくなると観る本数をどうしても減らす必要が出てくる、とも思う。演劇人が演じて、演劇人が観る、というだけでは限界があるのだろうと感じるところ。どうしたって、稽古含め準備にも一定の期間を必要とする作業なので。仕事もしないとなあ。24時間芝居のこと考えてるわけにもいかない。年とったもんで、帰るとすぐ眠くなる。バランスとりながら、体力の続く限り、できることやっていきたい。

この「観劇は感激だ」シリーズ、そんなに多くの人々の目には触れてないかも知れないけど、三月から月一回ペースで続けてきた。元々、ブログ始めた時に、何の不具合だかはわからないが、文字数の問題かな？長く書いていると途中で切れちゃう症状があって、書き切れないことを別ファイルで、ってことでやってきた。これ、月末に思い出しながらまた一通り書くというのも案外大変で、特に12月みたいに10本も観ちゃうとねー。とりあえずブログの方が安定してきたので、この形はここで2018年12月で一つの区切りにしようと思う。やめるわけではなくて、何か月一くらいのペースでその都度思ったことを書くつもりですけどね。だから、今後ともよろしくをお願いします。

今はもう、2019年も知れない。ワークショップに来てくれた生徒さんや先生方、ドラマ＝リーディング会に参加してくれた皆さま、ツイッターなどでつながった皆さま、いろいろとお世話になりました。2019年も、それぞれのフィールドでがんばってください。むらかみもがんばります。どうぞ今後ともよろしくをお願いします。

2019年が、皆さまにとって、良い年でありますように！

「むらかみ劇場2」村上 晴彦